令和6年度 第2回平塚市障がい者自立支援協議会 議事録

令和6年10月28日(月)10:00～
平塚市役所・平塚税務署 本庁舎6階 619会議室

【委員】

参加者:遠藤委員、赤部委員、鈴木委員、与野委員、佐藤(綾)委員、宮崎委員、望月委員、佐草委員、島田委員、橋本委員、村田委員、山崎委員、益子委員、前田委員、松本委員

欠席者:佐藤(隆文)委員、佐々木委員、平嶺委員

【事務局】

障がい福祉課:村田課長代理、小嶋課長代理、古田主管、麻野主査、萩原主査、石田主査、西谷主査、津田主査

こども家庭課:佐伯課長代理、小瀬主査

オブザーバー:湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター千葉氏

傍聴者 3名

開会の宣言

【課長代理】

定刻になり、これより協議会を始める旨の宣言がある。

【事務局】

資料の確認

【会長】

傍聴者の入場が許可される。(傍聴者3名)

議事

1 神奈川県日中サービス支援型共同生活援助ふわふわ平塚に関する報告・評価
資料番号1-2を基に報告。

【グループホーム担当者】

利用者が安定した生活ができるよう取り組んできた。安定した通所利用を行うことで重度化を防ぐよう努めている。入所時より体力がついた方もいた。高齢化に伴い、介護認定利用者に介護関係の事業所と連絡を図り、サービス利用の調整を行った。職員の退職があり、残った少ない職員で日々支援を見直している。

質疑応答

【委員】

インターネットで調べたら訪問診療専門のクリニックで複数の医師がいた。重度の方が多いため、医師との信頼関係が重要。医師と信頼関係が築けているのか不安であるため、往診頻度や医師の変更が毎回ないか知りたい。

20時の服薬支援は、睡眠導入剤か。グループホームに入所後に飲み始めたのであれば、それはどうか。睡眠導入剤の服用者の人数と、どのような状態で飲み始めたのかを知りたい。

歯科検診はどのようになっているのか。グループホームに入所したことで、かかりつけ医に通えなくなるのは親として不安。

事例に児童について児童相談所から相談あり、長期の短期入所とあるが、本人の状態がどうなったのか。学校はどうしていたのか。

【グループホーム担当者】

月2回に往診あり。2週間の本人の様子を医師に報告している。状態に応じて服薬調整の相談をしている。

睡眠導入剤は男性8名、女性4名服薬している。夜間眠れない方については医師と相談しながら、睡眠導入剤の量を調整することがある。

児童の事例は、「6月から学校に行っていない。」と母から連絡があった。グループホームでは落ち着いて過ごせるが、自宅では母への加害行為や破壊行為がある。母は精神的に辛く、児童相談所に相談したと聞いている。グループホームでは多少癩癩を起こす程度で、テーブルやイスを蹴飛ばすことはあったが、他害行為はなし。帰宅後に一度入院し、治療した。処方薬は増えても母が家で養育できず、児童相談所に相談しグループホームに連絡があり、現在に至る。

今までの歯科検診の診療所では、治療記録を家族に提示していなかった。利用者が帰省した際に口腔内を見た家族から「しっかり検診できているのだろうか。」との問合せがあった。そのため、10月から市内の歯科に変更し、徐々に移行中。歯科で一次診療し、グループホームでの治療が難しければ、二次診療に繋げるネットワークがある。医師から直接家族に説明し、理解をいただいている。

【委員】

歯科については、安心した。

睡眠導入剤を飲むと夜間には起きられず災害時に逃げられるのかと思う。重度の方が多いので、ただでさえ逃げるのが難しい。グループホームは本人の暮らしを支援し、居場所になり、落ち着くことで薬をやめる方向性を確立していかないといけない。医療機関とコミュニケーションを取りながら、居場所づくりを進めていただきたい。

通学できない児童の場合、児童相談所だけではなく学校とも連携できるとよい。短期入所を使いながら学校に行ける支援ができれば。自宅で他害行為が出るのであれば、学校が居場所になるような支援を進めてほしい。最終的に、卒業後にグループホームや通所を考えられるとよい。グループホームで落ち着いて過ごせるという良い点を家庭と学校と児童相談所とで共有し、本人のために支援していただければ。

【委員】

自己評価について、「職員が少ない中でも工夫している。」とある。業界として支援者の確保が難しいことは承知している。支援体制の実態として不足はどれくらいか。具体的に教えてほしい。

【グループホーム担当者】

1階の男性棟、2階が女性棟。日中は、ワンフロア 2 人。常時4人を確保したいが、現状は2名～3名の支援体制。夜間はワンフロア2人を確保したいが、現状2名～3名、ワンフロア1名の時もある。

【委員】

法人として、他の事業所同士の応援はあるか。

【グループホーム担当者】

湘南地区には、藤沢や茅ヶ崎、平塚の3事業所がある。他のグループホームから人員の応援はある。川崎と相模原に3事業所あるので声掛けをし、人員に余裕がある日などにスタッフの応援あり。

【委員】

職員を募集をしても応募がない状況か。募集は事業所単位で行っているのか。

【グループホーム担当者】

本部が一括で行う。応募があったら勤務エリアの希望を聞く。平塚に希望がなくとも平塚に通勤可能かを確認し、可能であれば、率先して採用する。

クライスハイム平塚真田事業所(仮称)

資料1-3、1-4、1-5をもとに説明

質疑応答

【委員】

家賃は月額 5 万円とあり、全体家賃は月額 100 万円とある。その他に利用者負担の利用料(食費など)は、職員の給与は補助金などで賄われるのか。

【グループホーム担当者】

利用料で利益を得ることはない。職員の給与は障害福祉サービスの報酬から支払う。利用料は生活費用のみ。

【委員】

日中のプログラムに 13 時 30 分から順次入浴とある。通所している重度障がいが入浴介助が必要な場合、通所先から帰宅後の夕方でも入浴介助の職員がいて入浴できるのか。

実施方針にある「住居内で提供する日中サービスの生活訓練」とは何か。訓練だと本人の精神的な負担になることもあり、頑張っても思うようにできない場合がある。本来は生活支援であり、本人が楽しみながらできることに喜びを得るための工夫を聞きたい。

【グループホーム担当者】

入浴のプログラムはあくまでも予定。ホームによって入浴時間は前後する。目安として昼食後に徐々に入浴するというイメージ。通所先から帰宅後の入浴支援もできる体制を整える。通所後でも入浴は職員が付き添う。

事業計画書上、訓練と記載している。グループホームとしては自立支援を目標にしている。自立に向けてできないことは職員と一緒に手伝う。その方に合わせたスケジュールを組む。例えば、掃除ができなかったが、支援を得てできるようになれば、「今度は一人でやってみよう。」というように一つ一つできることが増えるとよい。

【委員】

入居者の中で、強度行動障害入居可となっている。研修の所に、強度行動障害の方の研修はない。強度行動障害の方とは、どの程度を想定しているか。

【グループホーム担当者】

強度行動障害と認定された方としている。強度行動障害の方は、難しい問題が非常に多い。弊社の方針としては、相談を受けた段階では断ることはない。まず受入れをして、事前のカンファレン

スを行い、支援の指針を立て、後はトライ&エラー。支援方法の模索は終わりが無い。グループホームだけではなく、関係機関と担当者会議を開催し検討する。

【委員】

様々な研修を実施しているが、その中で強度行動障害の研修がなかったのが気になった。強度行動障害の方は、失敗体験をすることでますます悪化する可能性がある。支援者はトライ&エラーでよいかもしれないが、本人はどう思うか。強度行動障害といっても範囲が広いので、他害がどこまであると対応が難しいのかなど明確にすることが必要。

【会長】

浴室が3か所ある。重度心身障害者も対応可能とあるが、どのような設備か。

【グループホーム担当者】

浴槽は可動式。片麻痺の方を想定して、浴槽を移動させた反対側に椅子がつけられる。麻痺のない側から浴槽に入る対応が可能。浴槽には手すりがあり可動式。シャワーチェアも活用。

スターホーム

グループホーム責任者、建築担当から資料1-7、1-8を基に説明あり。

質疑応答

【委員】

地域との繋がりを持つようとしていることに好感が持てた。上手く地域に根付いていただきたい。職員の育成方法では小テストがあり、熱心だと思った。毎日の出勤後の短編の動画研修はどのような内容か、効果を聞きたい。

【グループホーム担当者】

短編の動画研修は3~5分。YouTube研修のURLをQRコード化して、毎日タイムカードを打刻する近くに貼っている。空き時間に研修を見るように案内し、見たら感想文を作成してもらう。通常の研修は、動画研修システム導入。毎月テーマを変えて開催。進捗も管理できるシステムであり、研修未受講ならリマインドをかける。研修内容の効果を確認するため、翌月に実際に研修のシチュエーションでテストを行う。

【委員】

グループホームに一度入居したら最後まで住めるのか。

【グループホーム担当者】

グループホームは終の棲家なので、希望があれば住み続けられる。

【委員】

家賃 50,000 円とあるが、食費、光熱費がいくらか。国、市町村の補助ある。月の利用料はいくらになるか。

【グループホーム担当者】

家賃 50,000 円。特定給付10,000 円、平塚市からの給付金 10,000 円があるため、実質 30,000 円の負担。中には給付が出ない方もいるため、一律ではない。

食費は 3 食×30 日 = 36,000 円

水光熱費 当月払い 14,000 円

食費、水光熱費は実費請求。食事の記録をつけ、キャンセルの場合は請求せず。半年毎に清算。

水光熱費の毎月の請求金額を運営側と入居者の数で均等割りし、実費請求している。半年毎に請求・返金している。

【会長】

利用者は、約 10 万円。給付を受け約 8 万円。重度障害の方が多いため、障害年金 1 級と同じ程度と考えると生活は厳しいのではないかと。就労継続支援 B 型の収入があっても厳しいのでは。

【グループホーム担当者】

家賃設定の時に、障害年金で賄えるよう想定している。食費などは他の GH と比べると安い。食糧費は開所時から値上げせずに企業努力をして、削れるところは削っている。重度障がいの方は出費が多いので、できる限り改善を心掛けている。

2 地域課題への取組みについて

医療的ケア児の活動報告

くれよん 佐伯氏より報告

質疑応答

【委員】

自分の事業所では、コーディネーターの資格取得以前から医療的ケア児の相談は受けていた。コーディネーター資格者の職員が他のコーディネーターと連携できるようになり、相談先が増えた実感。コーディネーターの看護師と受入れ先の看護師とで直接やり取りをすることで、受入れ先の不安の解消に繋がった。

【事務局】

令和3年の医療的ケア児支援法施行以降、国、県等の補助事業が開始。コーディネーターの配置、ケア付き通学支援や在宅レスパイト事業は市内の事業所の協力があるこそ。他市では、「市が予算をつけても実現するものではない。担える事業所がないとどうにもならない。平塚市はなぜ上手くいっているのか。」と羨ましがられる。よい事業所に恵まれている。

【委員】

医療的ケア児はくれよんが支えているが、成人後に今と同様の支援が受けられるのか。視覚だけの障害でも移動支援など不足している。成人後に、医療的ケア児のフォローの問題が起こってくるのではないかと、その時はどうするのか。

【事務局】

こども家庭課は18歳未満を対象に事業を行っている。成人移行後も障がい福祉課と連携し、切れ目のない支援をしていく。

【委員】

医療的ケア児の部会には、支援学校の保護者の方が何名か出席している。保護者の横の繋がりができない悩みがある。支援学校に通っていても地域の小中学校とも繋がりたいという強い思いがある。学校では支援できず、このような会議があるのは有難い。大人になると急にサービスが減ることを高等部の保護者は心配し、常々話題に上がる。できれば児と同じくらいの支援が受けられるとよいと思う。

【委員】

県の育成会の父母連に参加し、医療的ケアの団体とも一緒に要望活動をしている。大人のおむつ交換が行えるバリアフリートイレの普及を進めて、外出先でも医療的ケアの方たちが楽しく過ごせる環境を整えていくことが大事。大人になっても外出が楽しめる環境づくりをお願いしたい。

【委員】

平塚市は、対象の方のより良い生活のために事業展開を進めている。島田委員から話があったように、地域からコーディネーターの期待感が高まっている。医療的ケアの程度も様々で差が大きい。注射のみの方で障害サービスを利用していない方でも生活しにくさがある。通常の障害サービスに乗らない方を意識しながらサービスを検討していく必要がある。コーディネーターと関係機関とでどう支援すればよいのか、進めていきたい。今回作成したチラシを保護者に説明し、スムーズと一緒に考えていける体制づくりをしていけたらよい。

3 災害対応について

資料3-1、3-2を基に平塚市社会福祉協議会 遠藤氏より報告あり。

質疑応答 なし

4 ひらつか障がい福祉プラン(案)のパブリックコメント手続きの実施について
事務局より説明あり。

質疑応答

【委員】

9月中旬に団体で計画について話し合った。市に「点字でください。」といっても無理なことは分かるが、膨大な量の資料をみるのは大変だった。メールで聞いて考えても、聞きながら抜けてしまう。不備があると思うが、校正していない点字資料を作成した。取組を見ても前のことが分からなければ意見を出しにくい。

もう少し時間はほしい。2週間の期間では、集まるのも大変。福祉会館が使えず、勤労会館を使った。勤労会館は普段使っていないので、自分だけでは来れないため、ヘルパーを使う方もいた。緊急でヘルパーは依頼できない。そのような状況で計画について何を言ったらいいのだろう。医療の問題はあるが、平塚市からの重度障害者医療の支援は十分であり有難い。他市では、所得制限や年齢制限などある。

障がいがあればあるほど健康でい続けることは難しい。誰かついてもらわないと運動ができない。健康でいることは大変だと思った。

【事務局】

9月の団体ヒアリングは、短い期間でご協力いただきお礼申し上げます。障がい福祉プランは、庁内各課で多くの様々な取組があり、冊子が160ページになる。団体ヒアリング時では5章のみだったが、今回のパブリックコメントでは1章から4章もテキスト形式でホームページにアップし、全体が分かると思うので、活用していただきたい。

本プランでは、相談や支援の強化として地域生活拠点等の推進や、共生社会に向けて就労支援や行動援護等の障害福祉サービスの拡充、親なき後問題の解決策の一つとしてグループホームの拡充の取組を盛り込んでいる。一方で、必要な福祉施策を行っていくために、議会でも「国や県の補助金がない市単独事業は、今後事業の見直しが必要と認識している」といった議論があり、市単独事業の心身障害者福祉手当や重度障害者医療費のあり方を検討することとしている。

5 その他

【会長】

ともに生きよう障がい者の日キャンペーンイベントが11/16に湘南シティで開催予定。12/9に向けたキャンペーンを実施。

【委員】

団体連合会は、以前は10団体だったが、今は7団体のみ。親の会の負担が増えるが、多くの方に参加して欲しい。

【オブザーバー】

ナビだよりの説明。

4/31 開催の湘南西部圏域自立支援協議会の報告

8/21 開催の県自立支援協議会の報告の記事。

7/31 開催の圏域協議会で整理した課題は、重度障害のある方を支援する日中サービス支援型に代表するグループホームにおいて、支援の質が十分とは言えない状態が散見される。「事業所の運営会社がどのように支援者の質を担保していくのか。そのためにどのような働きかけができるのかということを県全体で考えていただきたい。」とお願いしてきた。ナビゲーションセンターは4社あり、ナビ会議で課題を整理していく。改めて年度末の会議で検討経過を報告していく。

市町協議会の事業評価(日中支援型のみ対象)では、時間を割いて適切な助言の場を設けているのに、助言が役立てられている様子が確認できず、何年も同じ助言を繰り返す事業所が相当数あるということが各地域で挙がっている。事業所は、会議で上がった助言を評価書を県に提出したところで手続き終了。助言を遂行するか否かは別問題であり、確認するシステムはないことがわかった。大切な助言を事業所にどう守ってもらうか。この場をしのぐことが大事になっていないか。助言を持ち帰って何とかしなければという思いを共有していただく話をしていかなければいけない。

次回 第3回自立支援協議会 令和7年2月5日

閉 会